

## 10月12日 公開保育を実施しました

永福保育園・城屋園舎(分園)にて公開保育を実施し、神戸大学大学院准教授 北野幸子先生よりご指導をいただきました。

永福保育園・城屋園舎(分園)ではアットホームな雰囲気の中、1歳児～5歳児まで15名の子どもたちが生活や遊びをともにしています。小雨の降る中ではありましたが、異年齢で関わりながら、自然豊かな環境の中で自分のしたい遊びを思う存分楽しむ子ども達の姿が見られました。

## 【公開保育テーマ】

◎1歳児～5歳児まで15名の子どもたちを自然豊かな環境のもと、少人数でアットホームな雰囲気を大切にしながら保育している。異年齢の子ども同士が遊びや生活を通じて関わり合いながら、人と人のつながりを深めていけるように見守っている。

## 【公開保育の視点】

◎異年齢、少人数ならではの関わりや育ちの姿を見とってほしい。

## 参加園・校

永福保育園	池内幼稚園
岡田保育園	舞鶴幼稚園
さくら保育園	
なかずじ保育園	大浦小学校
東山保育園	高野小学校
八雲保育園	
ルンビニ保育園	※50音順
うみべのもり保育所	
中保育所	
西乳児保育所	

## 公開保育

城屋園舎(分園)の環境は、山・川・木々に囲まれ自然豊かで子どもにとってとても良い環境。子どもが自己を発揮できることが大切であり、自己発揮する子が伸びる。

～北野先生 コメント～



## 【朝の集まり・リズム】

1歳児から5歳児までがホールに集まりピアノに合わせて思いきり体を動かしたり、動物になって思い思いの表現を楽しんでいました。

大きい子が小さい子の手をつなぎ、安心させてあげている微笑ましい姿も見られました。



## 【戸外遊び】

外遊びでは、自然に年齢ごとのグループができていました。  
2, 3歳児は、砂や水の素材を感度もくもくと遊ぶ姿、4, 5歳児は友だ

ちとイメージを共有しながらごっこ遊びを楽しむ姿など、それぞれに年齢発達の特徴が見られました。

## 【北野先生 コメント】

- ◎土間は天井が高く、開放感が感じられる。雨でも遊べるのがよい。園庭に築山があるのもよかった。
- ◎年齢ごとに集まって遊んでいるのは、言葉でのコミュニケーションがしやすいからとも言える。年上の子が少ない事も語彙の少なさに関係しているかもしれない。しゃべりたい気持ちや伝えたい気持ちは、意欲が育っていることが大事だと思う。
- ◎保育者は指示や命令がなく、子どもの目をよく見て余裕ある関わりをしている。少人数と関わることで個々を見れるようになる。
- ◎台と椅子がもう少しあるとよいと感じた。テーブルにもなり作ったものを飾る場所にもなる。
- ◎子どもが見える所や手の届く所に、簡単に生長して枯れる植物を育てるとよいと感じた。



## 【北野先生 コメント】

- ◎予定とは違い先にホールで遊んだとのことだが臨機応変なのがよかった。
- ◎リズムの時、大きい子が小さい子の手をつなぎ不安をやわらげている。異年齢のよさが見られる。
- ◎表現遊びでは〇〇になると決めてしまわず、ぞうでもキリンでも子どもがなりたいものになると楽しくなるのではないかな。
- ◎「朝の集まり」の時間は、年齢差や発達の的を考えると1, 2歳児は離れた所に集まる方がよいと思う。
- ◎乳児の子どもは遊戯室で靴を履いていると滑ったり走りにくそうにしていた。土踏まずができていない子も多いことから裸足の方がよいのではないかな。
- ◎走り回っている子は先生に追いかけてもらって嬉しそう。ゆっくり関わってもらえ理想的であり、よい関係が築けている。
- ◎乳児は並ばないでバラバラに走り回っていた。並ぶことがこの年齢に必要なのかを考えてほしい。乳児の姿がそれを気付かせてくれるチャンスだと捉えてほしい。

## グループワーク

## 【永福保育園・城屋園舎について】

永福保育園・城屋園舎(以下:分園)では長年地域の中の保育園として120名の定員で子ども達の保育が行われてきました。平成23年に公文名地区に園舎を新設した際、地域の方々と共に歩んできた城屋園舎を残し、自然豊かな環境の中で子ども達の成長を育みたいとの思いから、30名定員の分園としてスタートしました。公文名園舎(以下:本園)へ行き来し、子ども同士が交流したり、運動会や発表会などの行事を一緒に行っています。

## 【グループワークより】

公開保育後の参加者によるグループワークでは、①保育の視点にもとづいて記録した子どもの姿②公開保育を見てどう感じたか、感想、質問など③子どもを主体とした保育を実践するために自園では何が必要か、課題は何かについて協議をしました。

多くの先生が感じられたこととして、「自然環境が豊か」「小規模なので子ども達一人一人が主人公になれる」「保育者が一人一人にじっくりと関われることで良いところや課題が見えやすい」などの意見がありました。

## 【北野先生コメント】

◎子どもにとって分園は安心できる居場所となっている。十分に自分を出して自己発揮できる環境で育っている。こうした分園の子ども姿や少人数のよさを本園の保育にもいかして欲しい。

## カンファレンス



## 【保育者の関わり】

◎関わりがよかった。子どもと関わるとき目を見ていた。空間や子どもの数に余裕がある。少人数だからそのよさである。

◎噛む、叫ぶなどのいざこざがなくゆったり関わっている。

◎小規模で年齢に合った関わりをしていた。

## 【乳児保育】

◎朝のおやつ時間、9人中6人が歌の間に手を出していた。1・2歳児は目の前にあつらすぐ行動するのが特徴。歌のテンポはよかったが、乳児には2曲くらいでよかったかもしれない。発達を考えると大切だと思う。

◎子どもを行動させたいときに手を持ち動かせる園もあるが、保育者は強制的でなく丁寧に関わっていた。言葉かけの声のトーンもよい。  
◎紙芝居が見え



グローバル化、情報化が進む社会で生きていく子どもには、与えられたことに対して答えを出すだけの力ではなく、発想力やイマジネーション、クリエイティビティが大切になる。

～北野先生 コメント～

にくく、見上げている感じがした。保育者は椅子に座って読む方が子どもの目線の高さが同じになる。

## 【運動遊び・歌】

◎ホールでの遊びが短かったのもう少し動いてもよかった。みんな一緒と思いがちだが年齢差あるので、乳児は5分、幼児は15分ぐらいがよいと思う。

◎リミックは大きい動きやゆっくりな動き等様々な動きがありよかった。

◎3～5歳児には保育者がモデルをし過ぎず、自分で考えられるようにすることも大切だと感じた。

◎歌は「元気に、楽しく」だけでなく、4・5歳児は音を聞きながらピアノに合わせ、音程を合わせ歌うこと、5・6歳児は歌詞の意味を味わいストーリー性を考え歌うことを保育者が意図的に意識することが大切だと考える。

◎おやつ時に「いただきます」の歌を歌っている園は多いが、子どもの様子を見ながら取り入れるように考えてほしい。

## 【幼児保育】

◎3歳児は素材とじっくり関わり、やりたいことを黙々とする。水をくむため水道まで行っていたが、タライを置いておくともっと遊びに集中でき、集中が続くのではないかと

◎5・6歳児の子どもは話したことがなくても100人位の他者の認識や特徴、人間関係がわかると言われている。だからこそ多様な人との関わりを作っていく必要がある。

◎子どもは怒鳴ったり怒ったりたいたりすることがなく、言葉で伝えようとする姿が見られた。  
◎語彙の獲得や人との相互作用が大切なので、幼児だけ集まり振り返りなどをする時間を意図的に持つてはどうか。

## 【環境】

◎4・5歳はイメージした物に近づけようとして、リアリティーを追求しようとする。つぶしたり、色が出たり、においがある加工できる素材(どんぐり、はっぱ、草花)や、すりこぎ、じょうろなどがあるとよいと思う。

◎1歳児が砂遊びをしている所に、保育者が台を持ってきたのは適切だった。座ると下だけ見してしまうが、立って遊ぶことで目線が変わり、友だちが見える。

◎椅子4～5個、ビールケース5個あると、土間に更に1～2個のコーナーができる。

◎これからの時代を生きる子どもには、与えられたことに対して答えを出すだけの力ではなく、発想力やイマジネーション、クリエイティビティが大切になると思う。

◎今やっていることが必要なことなのか、子どもの姿から保育を見直してほしい。



## 10月11日 ドキュメンテーション研修を実施しました。

4グループ(1グループ4人～5人)に分かれて行ったグループワークでは、事例のドキュメンテーションをもとにワークシートを活用しながら、遊びの中の育ちや学びを読み取り、グループごとに協議を行いました。今回のドキュメンテーション研修には、初めてドキュメンテーションを書かれたという先生や、何度も書かれている先生が同じグループで保育を語り合い、活発な意見交換をおこなっていました。

北野先生の講義では、グループで協議したドキュメンテーションの一つ一つについて、丁寧に、具体的にご指導いただき、ドキュメンテーションを提供してくださった先生はもちろんのこと、参加の先生方も多くの学びを得ることができました。

## 参加園

永福保育園	西乳児保育所
さくら保育園	シオン幼稚園
タンポポハウス	舞鶴幼稚園
東山保育園	
八雲保育園	
うみべのもり保育所	※50音順
中保育所	



知識や能力は経験の蓄積によって後からついてくるもの。  
乳幼児期には経験の蓄積こそが大切である。

～北野先生 コメント～

### 【グループワーク報告】

グループワークの後には、初めてドキュメンテーションに挑戦された先生をはじめ、ドキュメンテーションを提供して下さった先生から感想を含めた報告をしていただきました。その一部をご紹介します。

◎これまでは子どもの「先生見て」という言葉をさっさと受け流していたが、子どもが自分自身で働きかけて何かが出来た喜びは大きいんだなということ、協議の中で気付くことができました。

◎他園のドキュメンテーションを見て、保育者の関わりや環境について気づけることがあった。いろいろな人の話を聞いて視野が広がった上、今後自分の保育に取り入れてみようと思えた。今回ドキュメンテーションを持ってきてよかった。

### 【ドキュメンテーション指導】

#### ◎1歳児事例「上手にすくえるかな？」

・「上手にすくえるかな？」という題名は保護者が達成度にとられる危険性がある。題をつけるなら「楽しくすくえるかな？」「いろいろすくえるかな？」など相対的な評価で伝えないようにすることが大切。

#### ◎乳児は試行錯誤の前の“意欲”と“経験の蓄積”を大切にす。

#### ◎1歳児事例「入るかな？」

・1歳児がペットボトルに色々な物を入れてみようとする姿は、試行錯誤というよりは物に興味をもつ、試すという姿。こうした子どもの姿が意欲を持つことへとつながっていく。  
・能力を育てるためにあれこれさせるのではなく、経験の蓄積に

よって気付けば能力が育っている。豊かな経験を可視化する。

・誰に向けて書いているのか、ということ意識することが大切。書き終わった後に自分で読み返し、客観的に捉えてほしい。

・その時期の発達の特徴をしっかりと捉え伝えるためには、一度に多くを書かず、絞り込むことが必要。それができていないとぼやけてしまう。

#### ◎2歳児事例「なににみえる？」

・子どもの「これなに？」の問いかけは、「何に見える？」というイメージを聞いているので、保育者が「答えを引き出すために〇〇した」という書き方では、「答え」を出すことが大事と捉えられてしまう。保護者が誤解しないように書いてほしい。

・感性やイメージの共有が大事であり、間違いや知らないということを指摘しないことが大事だと思う。

・保育者の意図の部分が伝わりにくいところがあるので、子ども同士の関わり合いや相互作用の機会を引き出すためにどういう意図をもって関わったか、環境の設定等を具体的に書いてほしい。

・固有名詞を聞いている時は、きちんと応えてあげるのがよいと思う。

#### ◎2歳児事例 散歩

・「子どもを待たせ」という表現は、誰が待たせたのか、カマキリを見つけたのは誰かがわかりにくい。

・待たせる、させる等の使役語は大人が与えたような保育の印象を受けるので、保護者は誤解を受けやすい。見つけて・探して・触れることができるといい、という達成感を伝えてはどうか。

#### ◎3歳児事例 菜園活動

・保育者の解釈と子どもの育ちが混在していると保護者はわかりにくい。事実と解釈を分けて書くことを意識すると、子どもの育ちが見えやすくなる。

・保育の現場にいない人にもわかるように客観的に書くことを意識する。

#### ◎4歳児事例「風船ごっこ」

・遊びが、子ども自身の「問い」や「やりたい」という気持ちになっているか。実践しながら子どもの様子を見てほしい。

- ①物を置いておく(環境構成)
- ②やってみせる(保育者がモデルになって)
- ③誘いかける言葉がけ

・見るように指

示するのではなく、見たくなるような姿を保育者が見せることが大切。

#### ◎4歳児事例「自然の不思議」

・ドキュメンテーションの中に3つの経験がある場合、一つ一つの経験ごとに考察をしてはどうか。つながりがあれば保護者にもわかりやすい。

・「できるように」という表現は使わず、「楽しむ・味わう・親しむ」と表す方が誤解されないのではないかと。

・経験をやる中で知識や能力は気づいたらついてくるものである。

・「意欲のある」というのは子どものどの様子、どんな言葉、どの写真であるか、保育者自身で見直した時、写真や文章の中から子どもの様子が伝わってくるかをよく見てほしい。

### 【ドキュメンテーションを書く際に意識すること】

◎ドキュメンテーションは、子どもの生活や遊びを見ていない人に伝えるためのものであるため、書き方には気をつける必要がある。

◎これで100点満点ということではなく、いくらでも工夫を積み重ねていけるものである。答えは1つではないので、一緒に考えてほしい。

◎土を埋めていくのではなく、築山を作っていくようなイメージで、不足を問うのではなく、蓄積、加算的に捉えていく。

◎主語が抜けていることが多いので、誰に対して書いているのかを意識することが大切。形容詞だけでは伝わらないので、試している様子、一生懸命な様子を子どもの姿を通して、「なにを」「だれが」「どうやって」を具体的に書く。

### 【ドキュメンテーションをもとにした振り返り】

◎多くの人と振り返りをする中で楽しさが感じられる。

◎自分の良さに気づき自信につながる。

◎他者の目から振り返ることで、自分の気付かなかったことに気付く。

◎自分の引き出しが増える。



## 10月26日 第3回 保幼小接続カリキュラム策定会議 開催しました

第3回の策定会議では、グループに分かれ保育所・幼稚園から収集した0歳～5歳までの事例と5歳児と1年生との保幼小連携活動の事例をもとに、子どもの学びや育ちを「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」で捉えるための協議を行いました。連携活動の事例収集には、各委員の皆さんにご協力いただき、市内で実施されている連携活動を参観し、記録をとっていただきました。協議後に会長でもある兵庫教育大学大

学院教授 溝邊和成先生よりご指導いただきました。

### 【記録の様式について】

◎事実をもとに記録が書かれている。

◎子どもの発言が一番大事。子どもが言っていないが、言ってほしいことを書いてしまうことがあるが、そこは言葉として書かない方がよい。

◎1年生が一生懸命書き綴っているノートも事実となり非常に重要。絵も意味がある。

◎この様式を保育所・幼稚園の指導案に使用

しないか。指導案は書きっぱなしになると意味がなく、振り返って見れる指導案になるとよい。

### 【事例の検討をして】

◎環境構成が大事。物だけでなく、時間の確保、保育者が待つことも環境構成。

◎子どもが挑戦し失敗してもやりなおせる時間と学びを広げるための時間が必要である。

◎「10の姿」をやればやるほど、「10の姿」とは何だろうと考えることが必要。

◎文言だけでなく、そこに言葉と付加できる、意味づけができることよと感じる。